

SHARP

プロジェクター用レンズ

形名 **XP-57UL**

設置説明書

お客様へ

プロジェクターの設置およびレンズユニットの取り付けには特別な技術が必要です。お客様による設置は絶対におやめください。落下してけがの原因となります。設置工事は販売店にご依頼ください。

ご販売店様・設置業者様へ

レンズユニットの取り付けおよび角度調整する際は、必ず本書に基づいて作業してください。誤った取り付けおよび角度調整はレンズユニットが落下してけがの原因となります。

はじめに

本書は、プロジェクター用レンズ (XP-57UL) の設置説明書です。プロジェクター用レンズ本体を「レンズユニット」と記載しています。

本書では、レンズユニットの取り扱い上の注意事項と、サポートキット (サポートベース (A)、サポートベース (B)、サポートステージを組み合わせた部品) の取り付けと調整の方法を説明しています。

本レンズユニットの投写距離表は、プロジェクターの設置説明書をご覧ください。

[重要]

- 本レンズユニットを使用する際は、プロジェクター本体のファームウェアのバージョンを確認してください。

ご確認いただくファームウェアのバージョンは、オンスクリーンメニューの「情報」→「バージョン」→「コントロールモジュール」のバージョンです。(→ 20 ページ)

プロジェクターの形名	対応しているバージョン
XP-X171Q-B	MM05-LDxx (MM の次の数字が 05 以降)
XP-X141Q-B	MM10-LDxx (MM の次の数字が 10 以降)

上の表のバージョンより前の場合は、本レンズユニットを使用できませんので、お買いあげの販売店にご相談ください。

- サポートステージを固定した状態で、レンズキャリブレーションおよびレンズシフトをしないでください。

レンズキャリブレーションおよびレンズシフトを調整する場合は、必ずサポートステージが固定されていないことを確認してください。サポートステージが固定されていると、プロジェクターやレンズユニットが故障します。(→ 13 ページ)

- 本レンズユニットを装着してスタック投写する場合、プロジェクターのスタッキングホルダーは使用できません。プロジェクターを直接積み重ねないでください。スタック設置する場合は、プロジェクター、レンズユニット、およびサポートキットの総質量 (約 43kg) に耐える丈夫なキャビネットを使用してください。


[注意]

- ファームウェアが本レンズユニットに対応していない場合、以下のような操作に影響します。
 - オンスクリーンメニューの「投写方法」の向きに投写されません。(18 ページ)
 - プロジェクター本体の操作ボタンが逆方向に動きます。(18 ページ以降)
 - レンズキャリブレーション時およびレンズシフト時の確認メッセージが表示されません。(19、23 ページ)
- レンズキャリブレーションやレンズシフトのときに表示される“確認メッセージ”の内容は変わることがあります。
- 本書の手順説明で掲載しているイラストは、床置き設置の場合です。
- 本書のイラストは実際の製品と多少異なる場合があります。

設置姿勢のアイコン表示について

本書では、どの設置姿勢に対応した説明なのかをわかりやすくするため、以下のようにアイコンで表示しています。

各アイコンが表す設置姿勢

 床置き投写	 天吊り投写	 床面投写
 天井投写	 ポートレート投写	

アイコン表示の例（天吊り投写だけが対象の場合）



対象外の姿勢には「N/A」を付けています。



安全にお使いいただくために

絵表示について

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、以下の絵表示をしています。

 警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡やけがをするなど人身事故の原因となります。
 注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人がけがをしたり周囲の財産に損害をあたえたりすることがあります。

警告

お客様へ

- プロジェクターの設置およびレンズユニットの取り付けには特別な技術が必要です。お客様による設置は絶対におやめください。落下してけがの原因となります。設置工事は販売店にご依頼ください。

ご販売店様・設置業者様へ

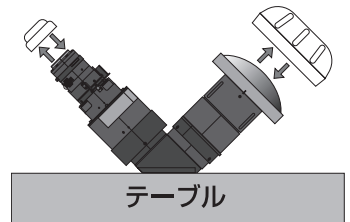
- 落下防止のため取り付け場所の強度および固定方法は、プロジェクター（約 30 kg）、レンズユニット（6.8 kg）、およびサポートキット（6.1 kg）の総合荷重（約 43 kg）の 4 倍の荷重に長期間十分耐え、また地震にも十分耐える施工をしてください。誤った取り付けをした場合、プロジェクターが落下してけがの原因となります。
- 2 人以上で作業してください。プロジェクターを 1 人で持ち上げた場合、けがや腰痛の原因となることがあります。
- 高い場所で作業する場合は、レンズユニットの落下の危険性があるため、作業エリアの下に人がいないか注意してください。
- レンズユニットを取り付ける際は、必ずサポートキットを使って、レンズユニットをプロジェクターに固定してください。固定しないと、レンズユニットが落下して、けがの原因となります。
- ネジゆるみ止め用接着剤・潤滑剤・油などをサポートキット固定部に使用しないでください。固定部の材質が劣化しレンズユニットが落下してけがの原因になります。
- レンズユニットおよびサポートキットを分解および改造しないでください。プロジェクターが落下してけがの原因となります。またレーザー光がもれることによる視力障害ややけどの原因となります。
- 壊れた部品を使用しないでください。レンズユニットが落下してけがの原因となります。万一、部品が壊れた場合は販売店にご相談ください。
- プロジェクター動作中はレンズをのぞかないでください。動作中は強い光が投写されていますので、視力障害の原因となります。またレンズ近くでのレーザー光への露光は、やけどを引き起こす可能性があります。

警告

- レンズユニットを装着したプロジェクターを天吊りなど、高所から吊り下げて設置するような場合は、落下防止用ワイヤー（市販品）を使ってレンズユニットの落下防止対策をしてください。
- レンズユニットの取り付け・調整作業中に、モーター、金具（モーター取り付け部、プロジェクター取り付け部、束線金具）、およびギア部には絶対に触れないでください。けがの原因となります。

レンズユニット取り扱い上の注意

- プロジェクターおよびレンズユニットは精密部品でできています。衝撃を与えたり、無理な力を加えたりしないでください。
- プロジェクターを移動する際は必ずレンズユニットを取り外してから移動してください。レンズユニットを装着したままプロジェクターを移動し、プロジェクターに衝撃を与えると、レンズユニットおよびレンズシフト機構が破損するおそれがあります。
- レンズユニットの取り外しおよび取り付けの際は、電源を切り、冷却ファン停止後、電源コードをコンセントから抜いてから作業してください。
- 作業中、レンズ面には絶対に触れないでください。
- レンズ面にゴミや油などが付着したり、傷が付かないように十分ご注意ください。
- 長時間レンズユニットを外しておく場合は、プロジェクターに防塵キャップを取り付け、ほこりやゴミが内部に入らないようにしてください。
- レンズユニットをプロジェクターに取り付ける際は、取り付ける側のレンズキャップを必ず取り外してください。レンズキャップをつけたまま取り付けると、プロジェクター損傷の原因となります。
- レンズユニットを取り外したあとは、必ず前側と後側両方のレンズキャップを取り付けてください。レンズキャップを取り付けないと、短時間であってもレンズ面に傷が付く場合があります。レンズキャップを取り付けずにレンズユニットを立てて置かないでください。
- 取り外したレンズキャップは大切に保管してください。



廃棄について

本製品を廃棄する際は、お買いあげの販売店、または自治体にお問い合わせください。

もくじ（操作の流れ）

1. 準備

(→ [次ページ](#))

- 1-1. プロジェクターの形名を確認する
- 1-2. 同梱品を確認する
- 1-3. プラスドライバーやボールポイントドライバーを用意する



2. 取り付け

(→ [8ページ](#))

- 2-1. サポートベースをプロジェクターに取り付ける
- 2-2. プロジェクターを設置する
- 2-3. プロジェクターにレンズユニットを取り付ける
- 2-4. サポートステージを取り付ける



3. 調整

(→ [17ページ](#))

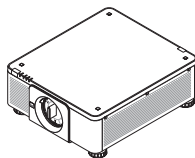
- 3-1. プロジェクターのレンズキャリブレーションを実行する
- 3-2. 投写位置の調整をする
- 3-3. 投写画面の傾き、ディストーションを調整する
- 3-4. フォーカスを調整する
- 3-5. サポートステージを固定する

1. 準備

1-1. プロジェクターの形名を確認する

このレンズユニットは、次のプロジェクターに対応しています。

XP-X171Q-B / XP-X141Q-B



1-2. 同梱品を確認する

① レンズユニット：1 個

サポートキット

② サポートベース (A)：1 個

③ サポートベース (B)：1 個

④ サポートステージ：1 個

ブラケット

⑤ ブラケット：1 個

ネジ・ボルト・ワッシャー

⑥ ネジ (M4 × 38)：2 本

⑦ 調整ボルト (M6 × 25)：1 本

⑧ ネジ (M4 × 14)：8 本

⑨ ネジ (M6 × 14)：9 本

⑩ ワッシャー：3 個

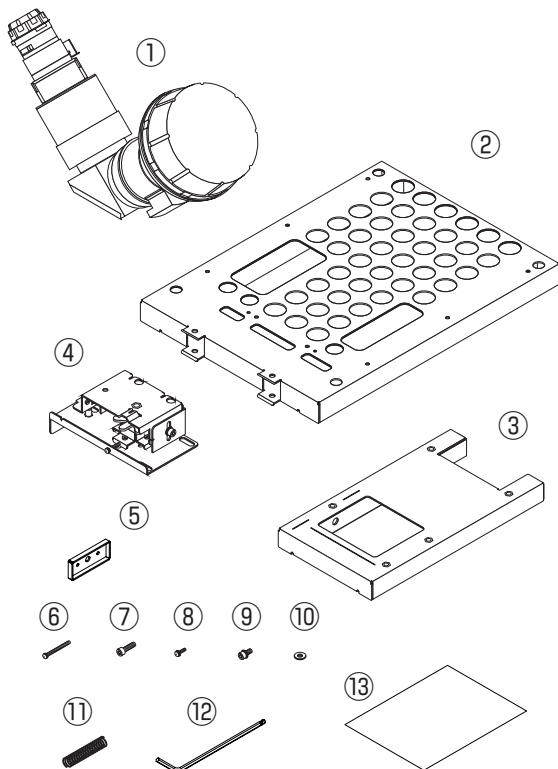
スプリング

⑪ スプリング：2 個

工具

⑫ レンチ：1 個

⑬ 取扱説明書：1 冊



1-3. プラスドライバーやボールポイントドライバーを用意する

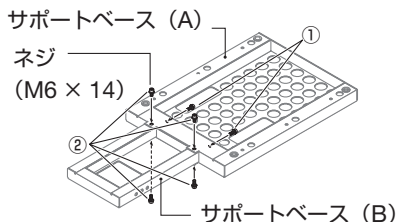
- 着磁が強いプラスドライバー、ボールポイント六角レンチドライバー（対辺 2.5 mm）
- 天吊りまたはポートレートで設置する場合は、プロジェクターとレンズユニットおよびサポートキットの重さに十分耐えられる取り付け金具

2. 取り付け

2-1. サポートベースをプロジェクターに取り付ける

1. サポートベース (A) にサポートベース (B) を取り付ける。

- サポートベース (A) とサポートベース (B) は凹んでいる側が同じ面になるように取り付けてください。
- サポートベース (A) の穴にサポートベース (B) を挿入し、右図の①、②の順番にネジ (M6 × 14) 6本で締め付けます。



⚠ 注意

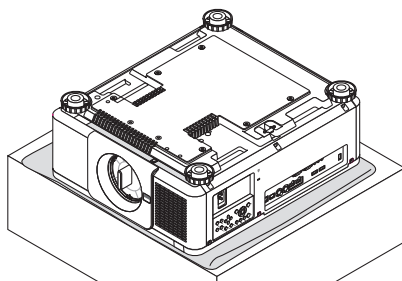
- 図で示すネジ以外のネジには触らない、締めない、緩めない、取り外さないでください。

2. プロジェクターを裏返す。

やわらかい布などを敷いた台の上に、プロジェクターを裏返して静かに置きます。

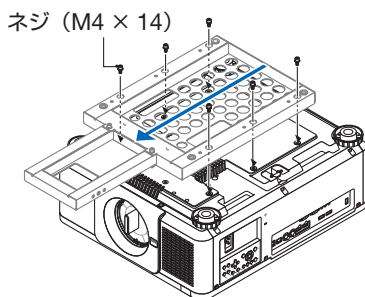
⚠ 注意

- 2人以上で作業してください。プロジェクターを1人で持ち上げた場合、けがや腰痛の原因となることがあります。



3. 手順1で組み立てたサポートベースをプロジェクターの底面に取り付ける。

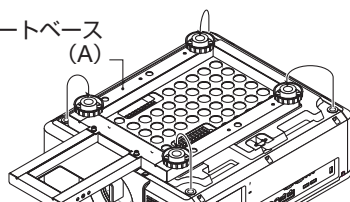
- プロジェクター底面にある2つのガイドピンに合わせてサポートベース (A) を置いてください。
- レンズホルダーとサポートベース (A) の6箇所のネジ穴を合わせて、ネジ (M4 × 14) 6本で仮止めします。
- ネジを仮止め後、サポートベースを矢印の方向に押し付けてからネジを締め付けます。



[注意]

- 床に設置して投写する場合は、プロジェクターからチルトフット (4個) を取り外し、サポートベース (A) に取り付けてください。

サポートベース (A)



2-2. プロジェクターを設置する

⚠ 注意

- 2人以上で作業してください。プロジェクターを1人で持ち上げた場合、けがや腰痛の原因となることがあります。

天吊りの場合

N/A



N/A

N/A

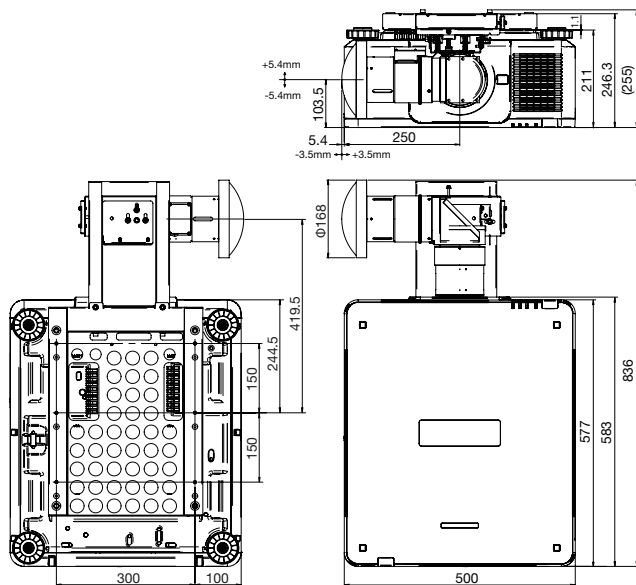
N/A

1. 天吊り金具を使用して、プロジェクターを天井に取り付ける。

下図は、レンズユニットを取り付けた状態の寸法です。

レンズユニットの取り付けは、次の章で説明します。

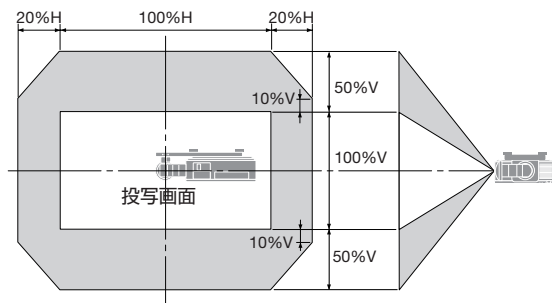
プロジェクターを設置した後に、レンズユニットを取り付けてください。



レンズシフト範囲

投写距離表は、プロジェクターの設置説明書をご覧ください。

右の図は、レンズキャリブレーション後の状態を表しています。(→ 17 ページ)



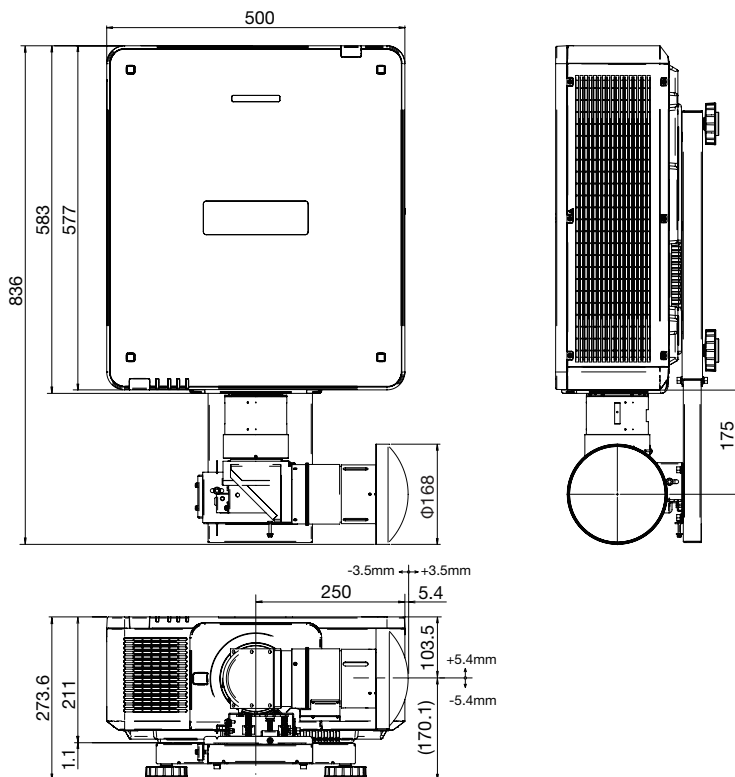


1. プロジェクターをもとの姿勢に戻す。

下図は、レンズユニットを取り付けた状態の寸法です。

レンズユニットの取り付けは、次の章で説明します。

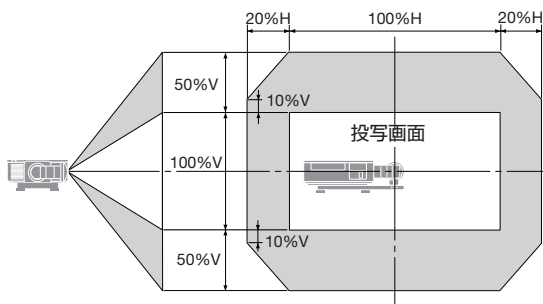
プロジェクターを設置した後に、レンズユニットを取り付けてください。



レンズシフト範囲

投写距離表は、プロジェクターの設置説明書をご覧ください。

右の図は、レンズキャリブレーション後の状態を表しています。(→ 17 ページ)



2-3. プロジェクターにレンズユニットを取り付ける

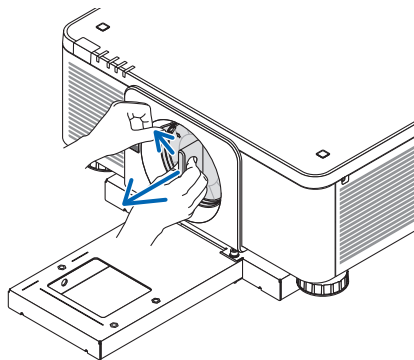
すべての設置姿勢で共通



※ レンズユニットを取り付けるイラストの向きは、床置き設置の場合です。

1. 本体の防塵キャップを外す。

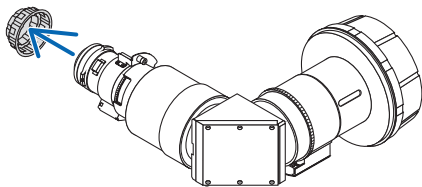
左上のツマミを外側に向けて押しながら、中央のツマミを引いて外してください。



2. レンズユニットの後ろのレンズキャップを取り外す。

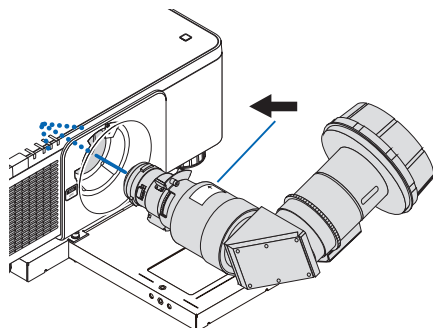
[注意]

- 後ろのレンズキャップは必ず取り外してください。後ろのレンズキャップを取り付けたまま本体に取り付けると故障の原因となります。

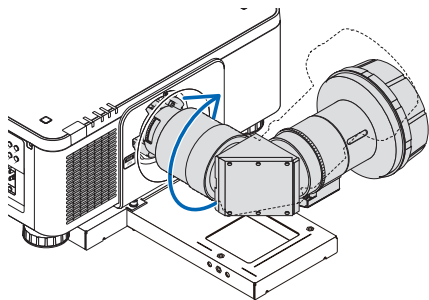


3. プロジェクターにレンズユニットを取り付ける。

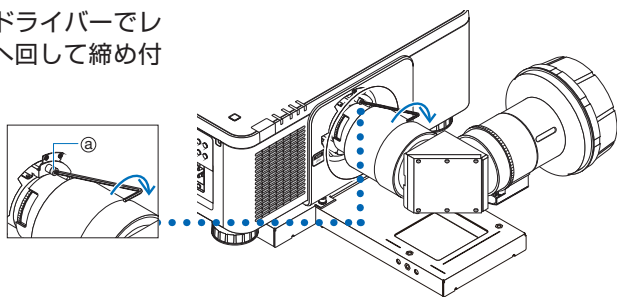
- ① レンズユニットの矢印マークが印刷されているラベル面を上に向けて、プロジェクター本体に挿入する。
角度を維持したままゆっくり奥まで挿入してください。



- ② レンズユニットを右に回す。
カチッと音がするまで回します。
レンズユニットがプロジェクター本体に固定されます。



- ③ ボールポイント 6 角レンチドライバーでレンズユニットのネジ③を右へ回して締め付ける。



[注意]

- 天吊り設置の場合、レンズユニットの前側（スクリーン側）を持ち上げながら、ネジを締め付けてください。

これで、レンズユニットの取り付けが終わりました。

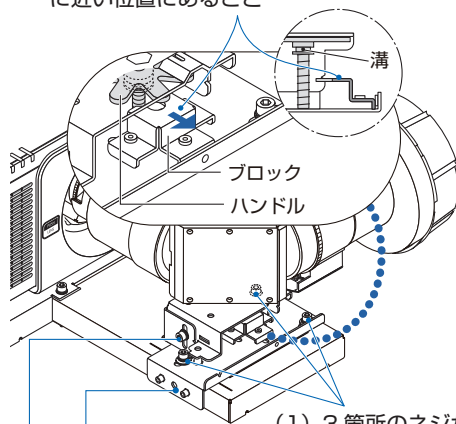
2-4. サポートステージを取り付ける

サポートベース (B) とレンズユニットの間にサポートステージを取り付けます。

【重要】

- サポートステージを固定した状態で、レンズキャリブレーションおよびレンズシフトをしないでください。
レンズキャリブレーションおよびレンズシフトを調整する場合は、必ずサポートステージが固定されていないことを確認してください。サポートステージが固定されていると、プロジェクターやレンズユニットが故障します。
- サポートステージが固定されていない状態とは、以下の (1) ~ (4) を全て満足している状態です。(下図を参照)
 - (1) サポートステージをサポートベース (B) に固定している 3 箇所のネジを手で回せる程度に緩めている。
 - (2) サポートステージの左右の 2 箇所のネジを手で回せる程度に緩めている。
 - (3) サポートステージの中央のネジを外し、内部のブロックを手前に引いて、花形のハンドルを回して、花形のハンドルがサポートステージの天面に近い位置にある。
 - (4) サポートステージにブラケットおよび調整ボルトが取り付けられていない。

(3) ブロックが花型のハンドルから外れ、花形のハンドルがサポートステージの天面に近い位置にあること



(1) 3 箇所のネジが緩んでいること

(4) ブラケットと調整ボルトが無いこと

(2) このネジと反対側のネジが緩んでいること

⚠ 注意

- 図で示すネジ以外のネジには触らない、締めない、緩めない、取り外さないでください。

[注意]

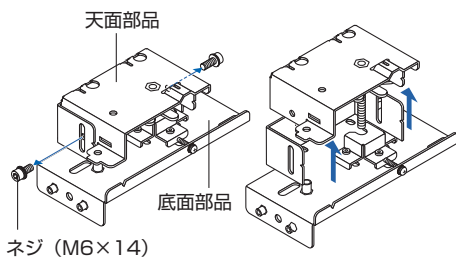
床置きの場合



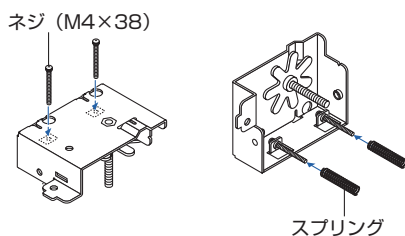
● 床置きの場合は、サポートステージの内部にスプリング（2本）を取り付けてください。

① サポートステージの左右にあるネジ（M6 × 14）を外して、サポートステージの天面部品を取り外す。

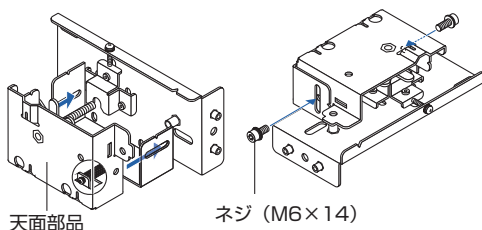
● 外したネジを失くさないように注意してください。



② 天面部品の2箇所（ネジ M4 × 38）を取り付け、そのネジにスプリングを取り付ける。



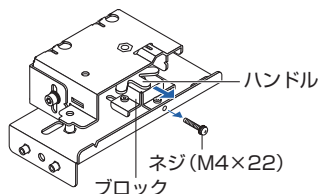
③ サポートステージに天面部品を取り付けて、左右のネジ（M6 × 14）を軽く締める。



④ サポートステージの手前のネジ（M4 × 22）を外し、内部にあるブロックを引き出す。

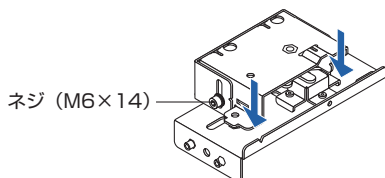
● ブロックが動かない場合は、花形のハンドルを回して緩めてください。

● 外したネジを失くさないように注意してください。



⑤ サポートステージを上下から抑えた状態で、左右のネジ（M6 × 14）を締め付ける。

これによりサポートステージの高さを最小にします。

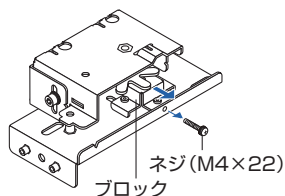


床置き以外の場合

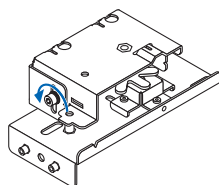


1. サポートステージの中央にあるネジ (M4 × 22) を外し、内部にあるブロックを引き出す。

- 外したネジを失くさないように注意してください。



2. サポートステージの左右 2 箇所 of ネジ (M6 × 14) を手で回せる程度に緩める。

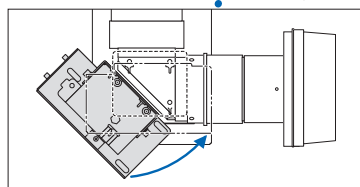
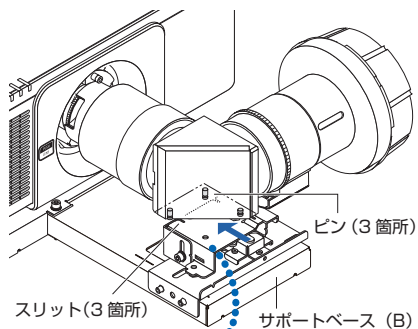


すべての設置姿勢で共通



3. サポートベース (B) とレンズユニットの間にサポートステージを挿入する。

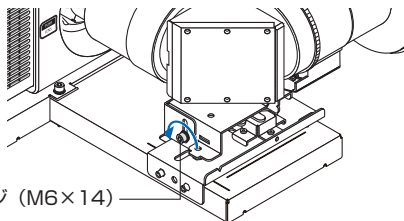
- サポートステージを挿入する角度に注意してください。
- レンズユニットの下にピンが 3 箇所あるので、サポートステージの上部にある 3 つのスリットに差し込みます。
- サポートステージが挿入しづらい場合は、レンズユニットを少し持ち上げてください。
- 床置きの場合は、右図のような角度から回すように挿入してください。



床置きの場合



4. 床置きの場合は、ここでサポートステージの左右2箇所のネジ (M6 × 14) を手で回せる程度に緩める。

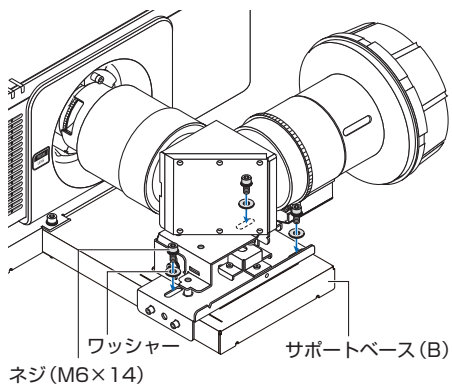


すべての設置姿勢で共通



5. サポートベース (B) にサポートステージを仮止めする。

- ネジ (M6 × 14) とワッシャーを使って、サポートベース (B) の3箇所を仮止めします。



3. 調整

投写画面の高さ、傾き、台形歪み、フォーカスなどを調整する前に、まずレンズキャリブレーションを実行してください。



※ 調整におけるイラストの向きは、床置き設置の場合です。

3-1. プロジェクターのレンズキャリブレーションを実行する

プロジェクターのレンズ位置をホームポジションに戻します。以下で、レンズキャリブレーション機能を使用して、レンズ位置をホームポジションに戻す手順を説明します。電源コードの接続と電源入/切について、詳しくはプロジェクターの取扱説明書をご覧ください。



警告

- スクリーンとレンズの間に入って調整作業をしないでください。レンズからの強い光が目に入り、視力障害の原因となります。
- レンズユニット動作中は、レンズユニット取り付け部の周囲に手を近づけないでください。
キャビネットとレンズユニットの隙間に指を挟むおそれがあります。

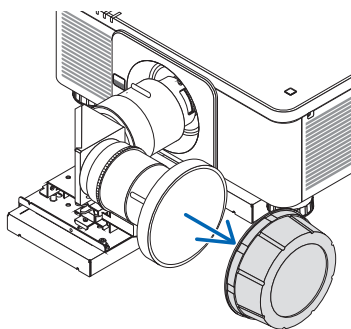
1. プロジェクターと壁のコンセントを添付の電源コードを使用して接続する。

プロジェクターに電源が供給されると、電源インジケーターが赤色に点灯します。

2. レンズキャップを取り外す。


[注意]

- 本機の電源が入っている間は、レンズからレンズキャップを外しておいてください。
高温になりレンズキャップが変形します。



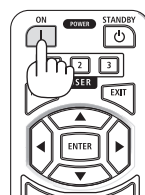
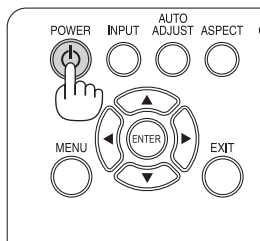
3. POWER ON ボタンを押す。

電源インジケーターが赤色の点灯から緑色に変わり点滅し始めます。その後、スクリーンに映像が投写されます。

- 本体で操作する場合は、 ボタンを押します。

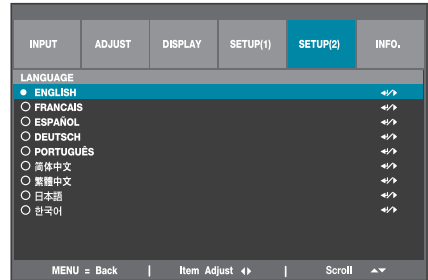
プロジェクター本体

リモコン



[参考]

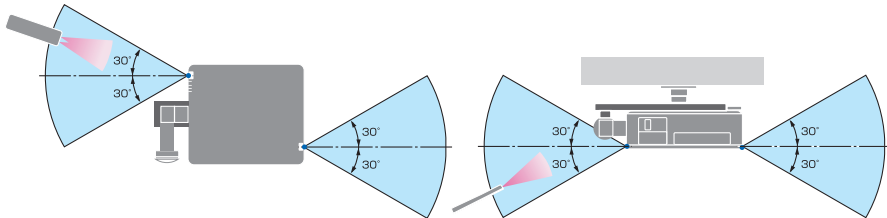
- ご購入後はじめて電源を入れたときは LANGUAGE 画面が表示されます。次のように操作して「日本語」を選択してください。
 - 誤って「日本語」以外を選択した場合は、オンスクリーンメニューを表示して「言語」を変更することができます。
- ① ▼ / ▲ ボタンを押して、カーソルを「日本語」に合わせる。
 - ② ENTER ボタンを押す。
オンスクリーンメニューの表示が日本語に設定され、オンスクリーンメニューが消えます。



4. NEMU ボタンを押してオンスクリーンメニューを表示する。

[注意]

- リモコンを使って操作する場合は、プロジェクターのリモコン受光部にリモコンを向けてください。またはリモコンケーブルを接続して有線リモコンとして操作してください。



5. 「表示」 → 「投写方法」を選択する。

【天吊りの時】

→ 「天吊り／フロント」を選択し、ENTER ボタンを押す。

【床置きの時】

→ 「デスク／フロント」を選択し、ENTER ボタンを押す。



6. オンスクリーンメニューの「表示」→「レンズ」→「レンズキャリブレーション」を選択し、ENTER ボタンを押す。

- 本体で操作する場合は、LENS CALIBRATION ボタンを押します。



投写画面に確認メッセージが表示されます。

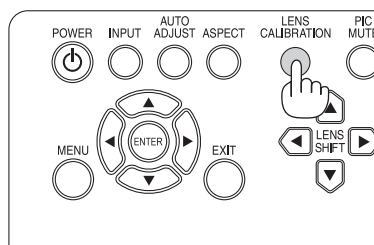
【注意】

- レンズキャリブレーションを実行する前に、レンズユニットとサポートベース (B) の間に、サポートステージが固定されていないことを確認してください。サポートステージが固定された状態でレンズキャリブレーションを実行すると、故障の原因となります。
- サポートステージが固定されていない状態とは、13 ページの (1) ~ (4) をすべて満たしている状態です。

7. ◀ / ▶ ボタンを押して「はい」を選択し、ENTER ボタンを押す。

確認メッセージが表示されます。

プロジェクター本体



8. ENTER ボタンを押す。

レンズキャリブレーションを開始します。

レンズキャリブレーションが終了するまで、約9分かかります。

レンズキャリブレーションが終了すると、「レンズキャリブレーションが完了しました」とメッセージが切り替わった後、自動的にメッセージが消えます。



[参考]

- レンズキャリブレーション中は、レンズユニット取り付け部から大きな音がしますが故障ではありません。

[重要]

- 本レンズユニットを使用する際は、プロジェクター本体のファームウェアのバージョンを確認してください。

ご確認いただくファームウェアのバージョンは、オンスクリーンメニューの「情報」→「バージョン」→「コントロールモジュール」のバージョンです。

下の表のバージョンより前の場合は、本レンズユニットを使用できませんので、お買いあげの販売店にご相談ください。



プロジェクターの形名	対応しているバージョン
XP-X171Q-B	MM05-LDxx (MMの次の数字が05以降)
XP-X141Q-B	MM10-LDxx (MMの次の数字が10以降)

[注意]

- ファームウェアが本レンズユニットに対応していない場合、以下のような操作に影響します。
 - オンスクリーンメニューの「投写方法」の向きに投写されません。(18ページ)
 - プロジェクター本体の操作ボタンが逆方向に動きます。(18ページ以降)
 - レンズキャリブレーション時およびレンズシフト時の確認メッセージが表示されません。(19、23ページ)

3-2. 投写位置の調整をする

テストパターンを表示して、レンズシフトを使って投写位置の調整をします。

[注意]

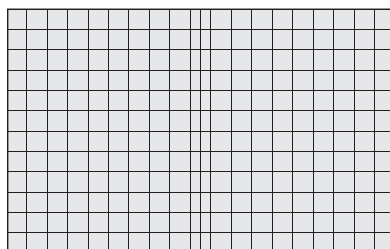
- 投写画面が台形に歪んでいるときは、プロジェクターの取り付け角度を調整して台形歪みを解消してください。(→ 27 ページ、28 ページ、29 ページ)

1. オンスクリーンメニューを表示して、「入力端子」→「テストパターン」を選択し、ENTER ボタンを押す。

テストパターンが表示されます。

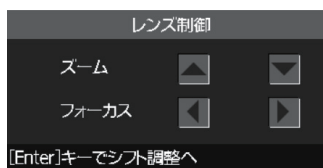


2. ◀ / ▶ ボタンを押して「クロスハッチ」を表示する。



3. 投写画面のズーム、投写画面の中央付近のフォーカスを仮調整する。

- ① オンスクリーンメニューの「表示」→「レンズ」→「レンズ制御」を選択する。
レンズ制御（ズーム／フォーカス）画面が表示されます。

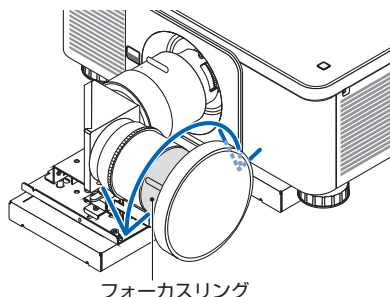


- ② ▲▼◀▶ ボタンを押す。

- ズーム ……画面サイズを微調整します。
- フォーカス ……画面中央付近のフォーカスを調整します。

4. 画面全体のフォーカスをフォーカスリングで仮調整する。

- ① レンズユニットのフォーカスリングを回す。

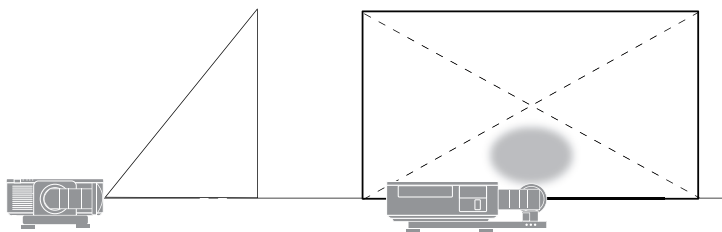


[参考]

- 画面の中央付近のフォーカスは、以下の位置を目安にして調整してください。

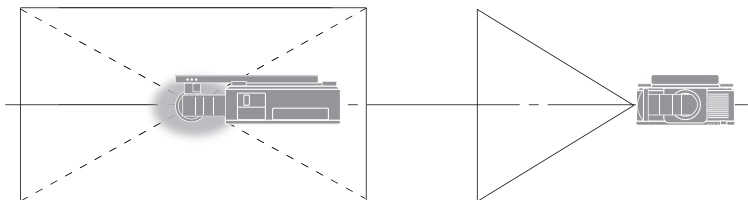
打ち上げ投写の場合

投写画面の中央とスクリーンの上端の間付近のフォーカスを合わせます。



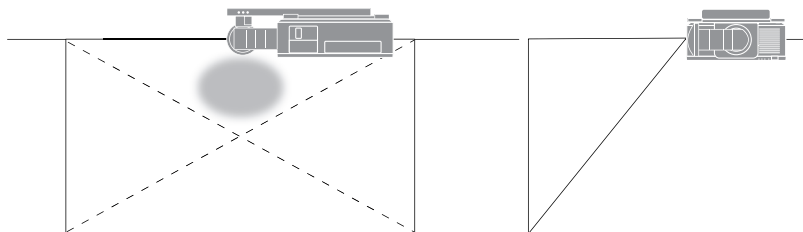
正面投写の場合

投写画面の中央付近のフォーカスを合わせます。



打ち下げ投写の場合

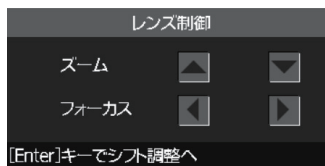
投写画面の中央とスクリーンの下端の間付近のフォーカスを合わせます。



5. 投写画面の位置を調整する。(レンズシフト)

- ① オンスクリーンメニューの「表示」→「レンズ」→「レンズ制御」を選択する。

レンズ制御（ズーム／フォーカス）画面が表示されます。

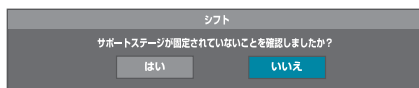


- ② ENTER ボタンを押す。

投写画面に確認メッセージが表示されます。

【注意】

- レンズシフトを実行する前に、レンズユニットとサポートベース (B) の間に、サポートステージが固定されていないことを確認してください。サポートステージが固定された状態でレンズシフトを実行すると、故障の原因となります。
- サポートステージが固定されていない状態とは、13 ページの (1) ~ (4) をすべて満たしている状態です。
- 本レンズユニットを装着しているとき、プロジェクター本体の LENS SHIFT ボタンは使用できません。



- ③ ◀ / ▶ ボタンを押して「はい」を選択し、ENTER ボタンを押す。

レンズ制御（シフト）画面が表示されます。

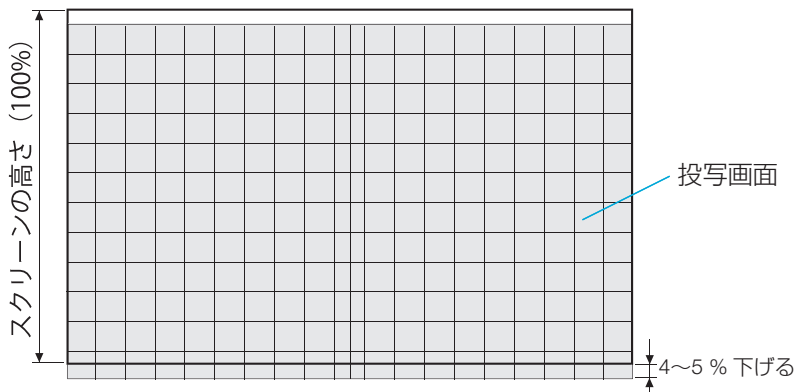


- ④ ▲▼◀▶ ボタンを押す。

スクリーンから投写画面が 4 ~ 5 % 下になるように移動します。(テストパターンの 1 つのマスの 50 ~ 60%)

【注意】

- レンズシフトが動き出すまで時間がかかります。レンズシフトが動き出すまでボタンを押し続けてください。



【参考】

- レンズ制御の「ズーム／フォーカス」画面と「シフト」画面は、ENTER ボタンを押すと、入れ替わります。



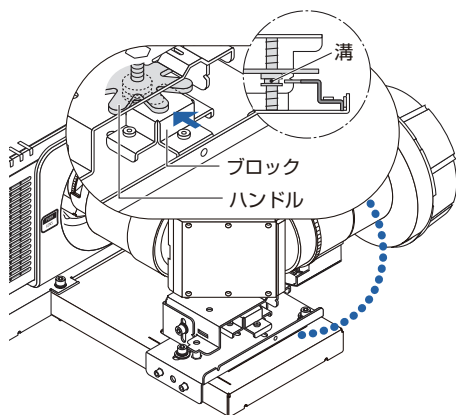
3-3. 投写画面の傾き、ディストーションを調整する

⚠ 警告

- スクリーンとレンズの間に入って調整作業をしないでください。レンズからの強い光が目に入り、視力障害の原因となります。
- やむを得ずスクリーンとレンズの間に入って作業する場合は、レンズシャッター機能を使って投写光を一時的に消灯してください。
 - レンズシャッター機能を有効にする場合は、リモコンの SHUTTER CLOSE () ボタンを押します。
 - レンズシャッター機能を解除する場合は、リモコンの SHUTTER OPEN () ボタンを押します。

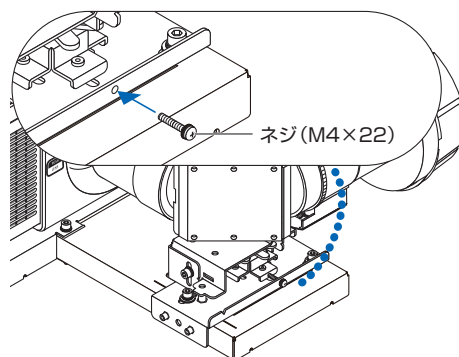
1. 引き出したブロックを花形のハンドルのネジの根元にある溝に引っかける。

- 花形のハンドルを回して、花形のハンドルのネジの根元にある溝がブロックに引っかかる位置まで、花形ハンドルのネジをサポートベース側に近づけてください。
- 床置きの場合は、14 ページの手順④を参照。
- 床置き以外の場合は、15 ページの手順 1 を参照。



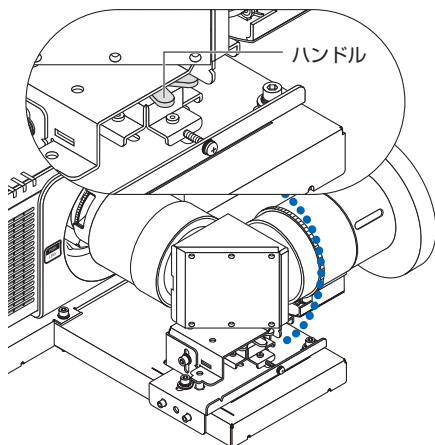
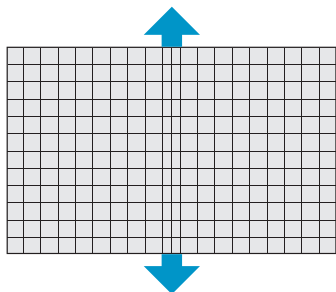
2. 外したネジ (M4 × 22) を元の場所に挿入し締める。

- ブロックを固定します。
- 床置きの場合は、14 ページの手順④を参照。
- 床置き以外の場合は、15 ページの手順 1 を参照。



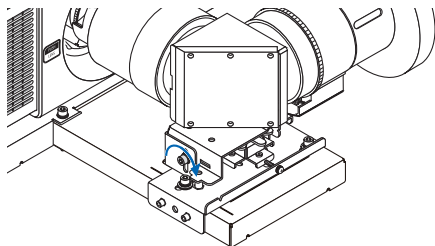
3. サポートステージ内にある花形のハンドルを回す。

投写画面が上下に移動しますので、スクリーンの高さに合わせます。



4. フォーカスおよび周辺フォーカスを調整する。

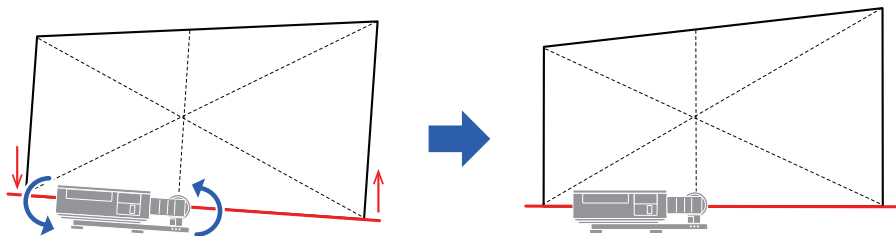
フォーカスおよび周辺フォーカスの調整方法は、[21 ページ](#)をご覧ください。



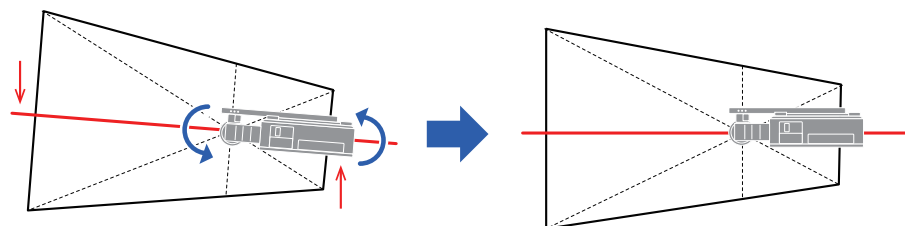
5. 画面の傾きを調整する。

- 投写画面において、投写レンズの中心の高さと同じ高さの左右方向の線を目安にします。
- その左右方向の線が水平になるようにプロジェクター全体を回転して調整してください。

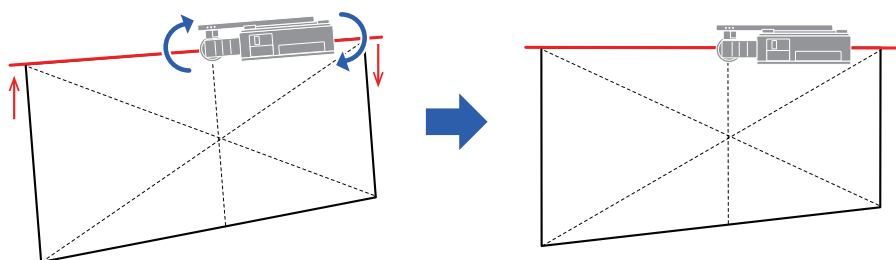
打ち上げ投写の場合



正面投写の場合

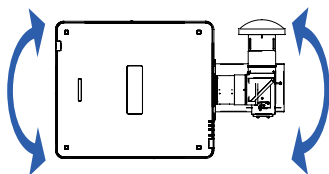


打ち下げ投写の場合

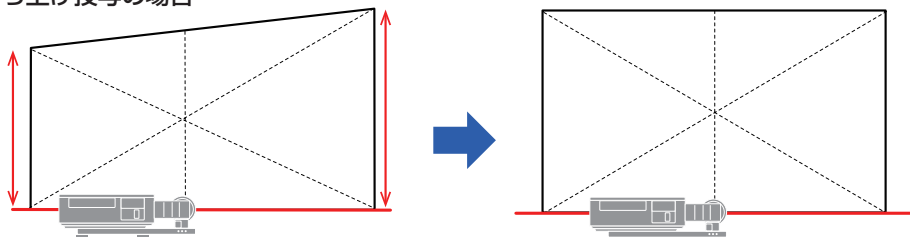


6. 画面の台形歪みを調整する。(左右の辺の高さが異なる場合)

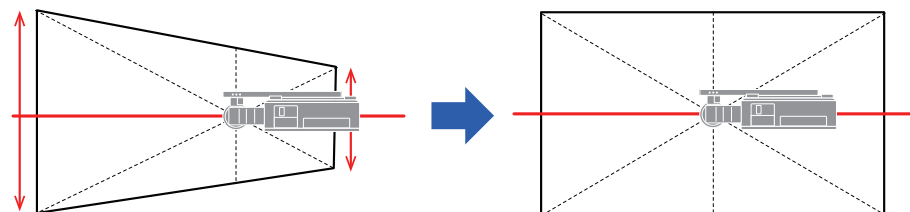
- 投写画面の左右の高さが同じになるように、プロジェクター本体の水平方向の傾きを調整します。



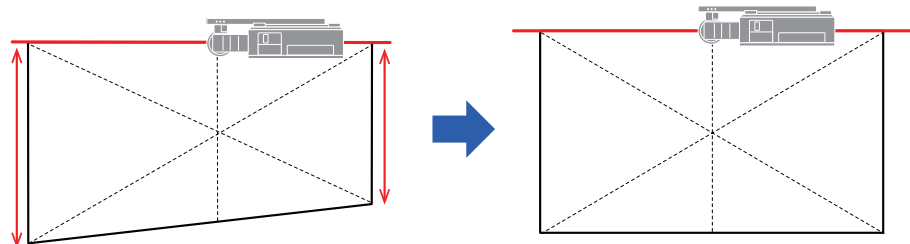
打ち上げ投写の場合



正面投写の場合



打ち下げ投写の場合

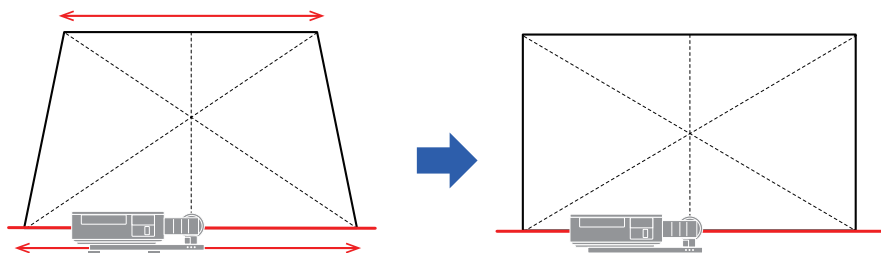


7. 画面の台形歪みを調整する。(上下の辺の長さが異なる場合)

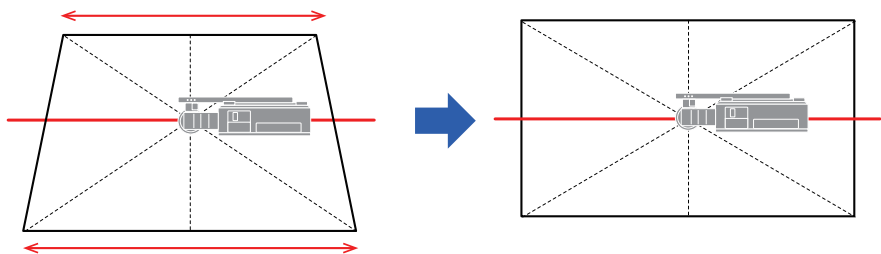
- 投写画面の上下の辺の長さが同じになるように、プロジェクター本体の垂直方向の傾きを調整します。



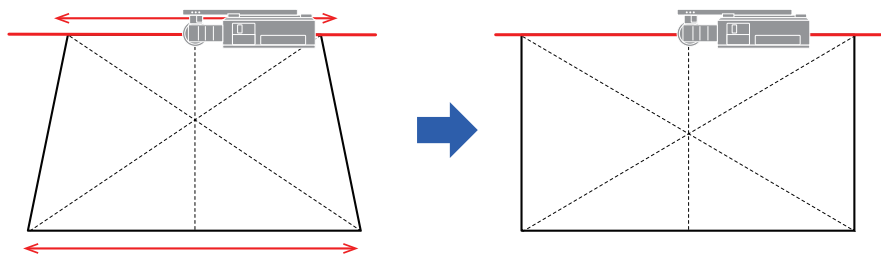
打ち上げ投写の場合



正面投写の場合



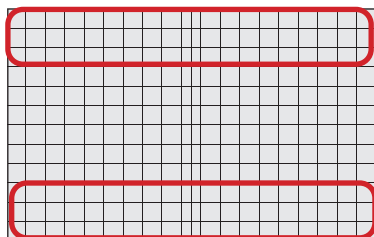
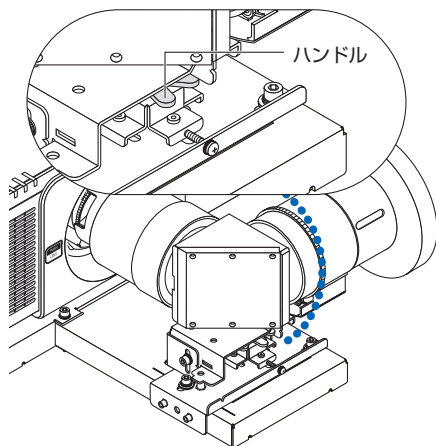
打ち下げ投写の場合



3-4. フォーカスを調整する

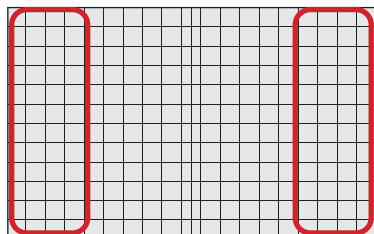
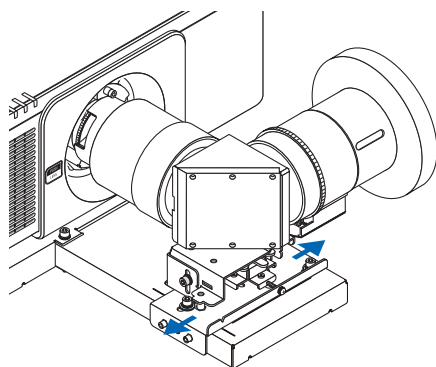
(1) 投写画面の上下のフォーカスバランスを取る場合

- サポートステージ内にある花形のハンドルを回して、上下のフォーカスバランスを取ります。



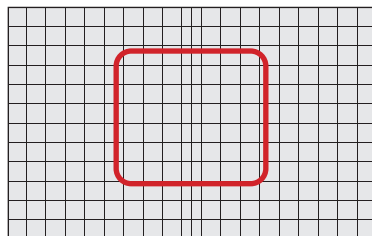
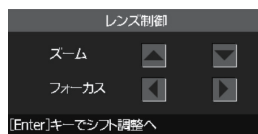
(2) 投写画面の左右のフォーカスバランスを取る場合

- サポートステージを矢印の方向に動かして投写画面の左右のフォーカスバランスを取ります。



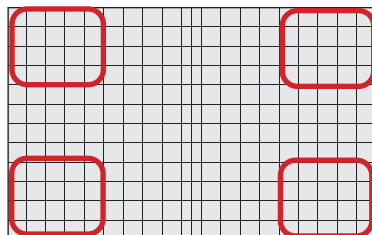
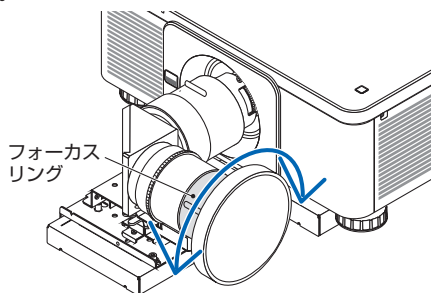
(3) 投写画面の中央付近のフォーカスを合わせる場合

- リモコンまたは本体の操作ボタンを使ってレンズ制御画面を表示してフォーカスを調整します。



(4) 投写画面の周辺のフォーカスバランスを取る場合

- レンズユニットのフォーカスリングを回します。

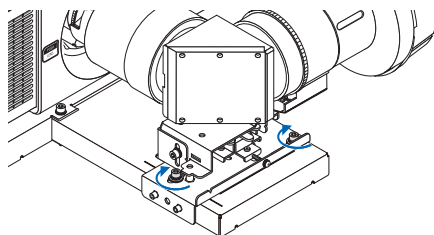


[注意]

- 投写画面の上下、左右、中央、および周辺のフォーカス調整を繰り返して、画面全体のフォーカスを最適な状態にしてください。

3-5. サポートステージを固定する

1. サポートステージの左右のネジを締め付ける。
2. 16 ページの手順 5 でサポートベース (B) に仮止めした 3 箇所のネジを締め付ける。



3. オンスクリーンメニューの「表示」→「レンズ」→「レンズロック」を選択し、ENTER ボタンを押す。



4. ▲ / ▼ ボタンを押して「オン」を選択し、ENTER ボタンを押す。

レンズロックをオンにすると、ズーム／フォーカス調整、レンズシフト、およびレンズキャリブレーション機能を使用禁止にします。

[重要]

- ズーム／フォーカス調整やレンズシフトを微調整する場合は、「レンズロック」を「オフ」にしてください。
- 投写画面位置を調整するために、レンズシフトを調整する場合は、サポートステージが固定されていない状態にしてください。サポートステージが固定されていると、プロジェクターやレンズユニットが故障します。
- サポートステージが固定されていない状態とは、13 ページの (1) ~ (4) を全て満たしている状態です。
- 天吊り状態で投写画面を左右に位置調整する場合のみ、サポートステージを固定している 5 つのネジが緩んでいてブラケットおよび調整ボルトが取り付けられていなければレンズシフトの微調整は可能です。

[参考]



天井投写 / 床面投写 / ポートレート投写の場合

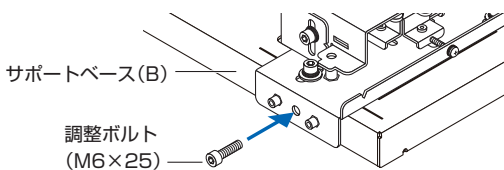
- 天井投写、床面投写、またはポートレート投写する場合は、投写画面の位置の微調整をするために、サポートベース (B) にブラケットを取り付けてください。

⚠ 注意

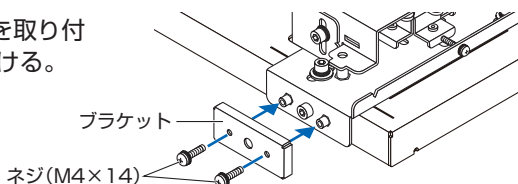
- 図で示すネジ以外のネジには触らない、締めない、緩めない、取り外さないでください。

- ① サポートステージをサポートベース (B) に固定している 3 箇所のネジを手で回せる程度まで緩める。

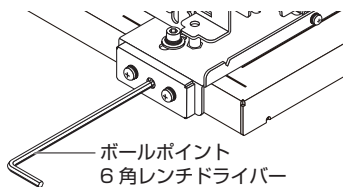
- ② サポートベース (B) に調整ボルト (M6 × 25) を仮止めする。



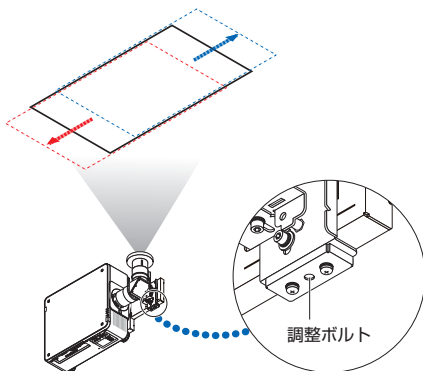
- ③ サポートベース (B) にブラケットを取り付け、ネジ (M4 × 14) 2 本で締め付ける。



- ④ ブラケットの中央の穴にボールポイント 6 角レンチドライバーを差し込んで調整ボルトを回す。
投写画面の位置を微調整します。



天井投写のイメージ



[参考]

サポートステージの外しかた



床置きの場合

- ① プロジェクターの電源を切る。
- ② サポートステージをサポートベース (B) に固定する 3 箇所のネジを手で回せる程度に緩める。
- ③ サポートステージの左右 2 箇所のネジを手で回せる程度に緩める。
- ④ 花形のハンドルはブロックに引っかかったままの状態にする。
- ⑤ 花形のハンドルを回して、サポートステージをサポートベース (B) から遠ざける。
- ⑥ サポートステージをサポートベース (B) から取り外す。

サポートステージが取り外しづらい場合は、レンズユニットを少し持ち上げてください。

床置き以外の姿勢の場合



- ① プロジェクターの電源を切る。
- ② サポートステージの左右 2 箇所のネジを手で回せる程度に緩める。
- ③ サポートステージをサポートベース (B) に固定している 3 箇所のネジを外す。
- ④ サポートステージの底面部品を動かしてサポートステージの高さを最小にする。
- ⑤ サポートステージをサポートベース (B) から取り外す。

SHARP
SHARP CORPORATION